

各 位



平成 26 年 7 月 30 日

会 社 名 株 式 会 社 ワ コ ム
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 山 田 正 彦
(コード番号: 6727 東証第一部)
問 合 せ 先 取 締 役 兼 執 行 役 員 財 務 本 部 長
長 谷 川 涉
(TEL 0120 -056- 665)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 26 年 4 月 30 日付決算短信の「平成 27 年 3 月期の連結業績予想(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)」の第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 27 年 3 月期第 2 四半期(累計)連結業績予想数値の修正 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 38,800	百万円 3,360	百万円 3,340	百万円 2,230	円 銭 13.40
今回修正予想 (B)	35,070	1,750	1,820	1,230	7.39
増減額 (B - A)	△3,730	△1,610	△1,520	△1,000	
増減率 (%) (B 対 A)	△9.6	△47.9	△45.5	△44.8	
前期(平成 26 年 3 月期第 2 四半期) 実績 (C)	34,440	3,059	2,982	1,958	11.64
増減率 (%) (B 対 C)	1.8	△42.8	△39.0	△37.2	

2. 平成 27 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 92,000	百万円 10,500	百万円 10,450	百万円 6,970	円 銭 41.87
今回修正予想 (B)	78,700	5,500	5,540	3,700	22.23
増減額 (B - A)	△13,300	△5,000	△4,910	△3,270	
増減率 (%) (B 対 A)	△14.5	△47.6	△47.0	△46.9	
前期(平成 26 年 3 月期) 実績 (C)	78,615	8,663	8,282	5,249	31.31
増減率 (%) (B 対 C)	0.1	△36.5	△33.1	△29.5	

3. 修正の理由

3-1. 第2四半期累計期間

第2四半期累計期間の業績は、ブランド製品事業、コンポーネント事業とも、期初想定したほどには売上が伸びず、結果的に利益も前回発表予想を下回る見通しです。

ブランド製品事業は、モバイル製品ラインなどの新製品効果やペーパーレス化とセキュリティ向上を実現する液晶サインタブレット製品のグローバルな需要の拡大などによって、前年比ではプラス成長を見込んでいるものの、全体としては想定ほどの伸びは見込めなくなっております。クリエイティブビジネスにおいては、ペンタブレット製品のブランド統合による混乱からの回復の遅れやエンタープライズのPCからタブレットへの移行、モバイル製品の需要創出の遅れ、大型ディスプレイ製品の需要鈍化などが響いています。また、コンシューマビジネスではスタイラス製品ラインは拡大したものの、市場全体の急速な低価格化などの影響で販売に苦戦しています。

コンポーネント事業は、スマートフォン市場で減速感が強いことに加えて、新機種の量産立ち上げが遅れており、早期の回復は見込めない状況です。またタブレット向けにおいても、大手ユーザの需要が減速しており、期初の想定を変更する必要があると判断しました。

3-2. 通期

通期の業績は、ブランド製品事業、コンポーネント事業ともに、上期での鈍化傾向が下期も継続すると見込まれ、売上、利益ともに前回発表予想を下回る見通しです。

ブランド製品事業は、特定業務分野向けビジネスでは引き合いが活発で期初の想定を上回る売上が見込めるものの、クリエイティブビジネスにおいては拡充したモバイル製品ラインなどが十分な需要を生み出すには至っておりません。また、コンシューマビジネスにおいても急速な回復は難しいことなどから、全体として売上は前年比ではプラスとなるものの、前回発表予想を下回る見込みです。

コンポーネント事業は、通期に亘ってスマートフォン向け、タブレット向けの需要回復が見込めない状況にあります。スマートフォン向けの需要は前年比で減少すると見ており、タブレット向けについても、教育市場など特定用途向けの需要が旺盛なものの、ハイエンド機種向けの需要は減速しており、短期的には回復が見込めておりません。また、新規に開発したアクティブESペン技術はユーザ各社から高い評価を得ており、下期には量産出荷を開始する予定ですが、通期の業績に与える影響は限定的と見ております。

当社は中期経営計画の基本戦略に従って、市場構造やユーザニーズ、流通構造などの変化に対応する事業モデルの変革に取り組んできました。ブランド製品事業、コンポーネント事業の売上が伸び悩む一方で、事業成長を支え、競争力と効率性を向上させるためのグローバル組織化やグローバルサプライチェーンの再構築、グローバルIT基盤の整備などには引き続き取り組む必要があり、販売管理費全体を大幅に削減することが難しい状況です。その結果、通期の営業利益は前回発表予想を大きく下回る見通しとなりました。

4. その他

業績予想の修正に伴い、平成26年4月30日に発表した「中期経営計画修正のお知らせ」に記した「修正した『中期経営計画WAP1215』」の計画数値の再度の修正も必要となります。しかしながら、急速に市場環境が変化する中で、中期経営計画を見直し新たな修正案を短期間に発表するには無理があるとの判断により、現時点での中期経営計画の修正と発表は見送ることにいたしました。

なお、平成26年4月30日に公表しました当期の配当予想1株当たり18.0円に変更はありません。

(注)上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上